

はじめに

医療従事者はそれぞれの専門的知識や技能の向上に努め、多職種協働によりがん患者に良質な在宅医療を提供する責務があります。

患者は身体的なことや内面的な悩み等の全人的苦痛（トータルペイン）を抱えています。また、家族は患者に日常的に接してケアする立場ですが、その一方で、同様の苦痛を持っていることを理解する必要があります。

がん疾患ではその進行に伴い病状の変化や急変がしばしば起こります。医療従事者はそのことを理解したうえで対応する必要があります。この副読本はテキストを補完することで、その知識を一層深め、がん疾患の在宅医療を実践していただくために作成しました。

この副読本の作成にあたっては、その予算を提供していただいた厚生労働省の関係者ならびに日本在宅医療連合学会の「がん疾患在宅医療人材育成ワーキンググループ」のメンバーの方々の多大な努力の結晶であることを付記します。

新横浜在宅クリニック（日本在宅医療連合学会 名誉会員） 城谷典保